

今治市を日本で5番目のフェアトレードタウンに

フェアトレード

地域活性化

普及・啓発

愛媛県立今治西高等学校(海外研究部)

所在地：愛媛県今治市中日吉町3丁目5番47号
沿革：明治34年愛媛県立西条中学校今治分校として設立。昭和24年愛媛県立今治西高等学校として開校。(当該活動の開始時期 平成26年度～)
学科：普通科
生徒数：1年10名/2年9名/3年5名/合計24名
(海外研究部・平成30年9月1日現在)

○事業・活動の概要

海外研究部は、英語のスピーチやディベート、国際交流活動を行っている。平成26年度に、英語の教科書に児童労働問題とその解決策の一つとしてフェアトレードが紹介されており、部員から部活動に取り入れたいとの提案を受け、啓発活動を開始した。自分たちが自転車で行動できる範囲で、生徒自身の力で発言・行動し、より広くフェアトレードを推進するために、フェアトレードタウン制度に着目し、今治市を日本で5番目のフェアトレードタウンにすることを目指し、普及・啓発活動及び研究活動に取り組む。

○普及・啓発活動

今治市内で購入可能なフェアトレード商品やフェアトレード関連のイベントの案内等、フェアトレードタウン運動に関する情報等を発信する「今治フェアトレードニュース」の発行や、海外研究部の強みをいかし、英語でフェアトレードタウン運動の紹介を行っている。

また、フェアトレード商品の販売促進のため、イベント等に参加して商品を販売している。既存商品の販売のほか、地元の波止浜スーパーの協力を得て開発したフェアトレードのカカオ豆を使った惣菜の開発・販売も行っている。

そのほか、児童労働問題とフェアトレードに関する理解を深めることを目的にフェアトレードの生カカオからチョコレートを作る「親子チョコレート教室」を開催した。

○研究活動について

フェアトレードタウン制度の調査やフェアトレード商品の分析、マークの分類・整理など、様々な視点から調査を実施している。

平成28年度は今治市議会議員に対して、フェアトレードに関する意識調査を実施した。ほとんどの議員がフェアトレードに関してあまり意識していなかったが、多くの議員が議員としてフェアトレードタウンについて「知る必要があると思う」と回答した。

○フェアトレードタウン運動による変化

生徒は、フェアトレードタウン運動により「まちぐるみの国際貢献」、「グローバルな食育」、「国際的認知度の向上」につながり、今治市民がシビックプライドを得ることができると考えている。

また、フェアトレードのことは知らず、英語が上手になりたいとの思いで入部したが、国際貢献に興味を持ち、活動を行う中で、「誰かがやってくれる」から「自分がしなくては」と意識が変化した生徒や、生徒本人に限らず、家族のフェアトレードに対する関心も高くなったように感じている生徒もいる。

○多様な団体や企業との連携

フェアトレード商品開発の手法や仕組みの理解、多様な主体とのネットワーク形成のため、「NGO×企業等四国フェアトレード商品開発研修」へ参加し、自己研鑽にも励んでいる。平成30年度はカカオだけでなく、大豆や綿糸といった他のフェアトレード原材料の利用を地元企業に提案する活動に取り組んでおり、今治由来のフェアトレード商品を集めた「フェアトレードパック今治」の発売を企画している。

フェアトレードタウン運動はフェアトレードという手段を利用し、まちづくり・人づくりをする運動である。フェアトレード商品の開発によって国際貢献をすると同時に地域の産業振興に結び付けることも期待されている。

○今後の目標

フェアトレードタウン認定には、地域内で主体的・継続的に活動する推進組織の設立が必要である。同校では、これまでの活動を通じて交流を持った地域の事業者や団体等に対して、推進組織の設立を呼び掛けている。今治市のフェアトレードタウン認定を目指し、まずは学校内の意識を高め、学校全体でフェアトレードを推進していく考えである。



公表日：平成31年2月4日 取材：平成30年7月「次世代エシカルフェス(徳島県教育委員会主催)」にて
外部リンク：<https://imabarinishi-h.esnet.ed.jp/cms/>